

世帯属性別にみた貯蓄・負債の状況

1 世帯主の年齢階級別

(1) 世帯主が50歳未満の世帯では負債現在高が貯蓄現在高を上回る

二人以上の世帯について世帯主の年齢階級別に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、40歳未満の世帯が708万円と最も少なく、60歳以上の各年齢階級では2000万円を超える貯蓄現在高となっている。

負債現在高をみると、40歳未満の世帯が1244万円と最も多く、年齢階級が高くなるに従って負債現在高が少なくなっている。また、負債保有世帯の割合は、40～49歳の世帯が66.6%と最も高く、40歳以上の世帯では年齢階級が高くなるに従って割合が低くなっている。

純貯蓄額（貯蓄現在高 - 負債現在高）をみると、50歳以上の各年齢階級では貯蓄現在高が負債現在高を上回っており、70歳以上の世帯の純貯蓄額は2173万円と最も多くなっている。一方、50歳未満の世帯では負債現在高が貯蓄現在高を上回っており、負債超過となっている。

(図 - 1 - 1, 表 - 1 - 1)

図 - 1 - 1 世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高，負債保有世帯の割合
(二人以上の世帯) - 2020年 -

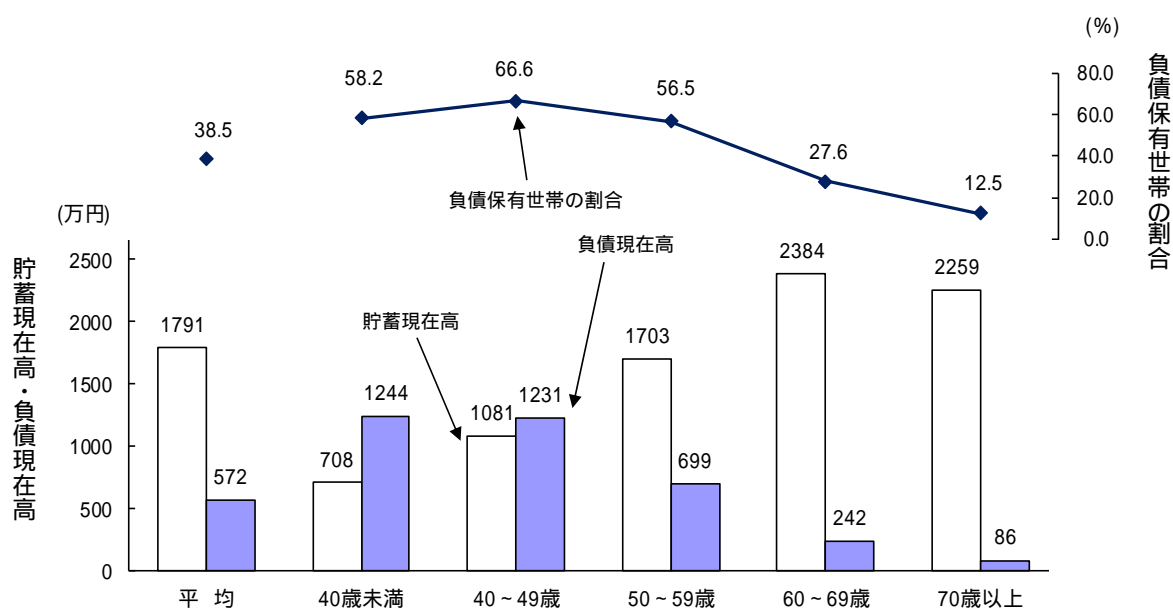


表 - 1 - 1 世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高の推移（二人以上の世帯）

年次	平均	40歳未満	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
貯蓄現在高(万円)						
2015年	1805	608	1024	1751	2402	2389
2016	1820	574	1065	1802	2312	2446
2017	1812	602	1074	1699	2382	2385
2018	1752	600	1012	1778	2327	2249
2019	1755	691	1076	1704	2330	2253
2020	1791	708	1081	1703	2384	2259
対前年増減率(%)						
2016年	0.8	-5.6	4.0	2.9	-3.7	2.4
2017	-0.4	4.9	0.8	-5.7	3.0	-2.5
2018	-3.3	-0.3	-5.8	4.6	-2.3	-5.7
2019	0.2	15.2	6.3	-4.2	0.1	0.2
2020	2.1	2.5	0.5	-0.1	2.3	0.3
年間収入(万円)						
2020年	634	660	786	869	592	441
貯蓄年収比(貯蓄現在高/年間収入)(%)						
2020年	282.5	107.3	137.5	196.0	402.7	512.2
負債現在高(万円)						
2015年	499	942	1068	645	196	83
2016	507	1098	1047	591	220	90
2017	517	1123	1055	617	205	121
2018	558	1248	1105	683	207	104
2019	570	1341	1124	652	250	70
2020	572	1244	1231	699	242	86
対前年増減率(%)						
2016年	1.6	16.6	-2.0	-8.4	12.2	8.4
2017	2.0	2.3	0.8	4.4	-6.8	34.4
2018	7.9	11.1	4.7	10.7	1.0	-14.0
2019	2.2	7.5	1.7	-4.5	20.8	-32.7
2020	0.4	-7.2	9.5	7.2	-3.2	22.9
住宅・土地のための負債(万円)						
2015年	446	896	994	536	158	63
2016	452	1041	974	490	182	62
2017	463	1057	988	540	162	86
2018	501	1184	1031	588	163	75
2019	518	1283	1052	578	190	51
2020	518	1169	1152	620	192	66
負債保有世帯の割合(%)						
2015年	38.1	52.6	64.6	54.6	27.1	12.4
2016	37.3	57.7	62.8	52.9	27.1	11.2
2017	37.5	59.3	64.8	53.2	26.3	11.4
2018	39.0	61.5	65.4	53.5	26.8	12.5
2019	39.3	61.9	66.2	55.3	26.9	11.9
2020	38.5	58.2	66.6	56.5	27.6	12.5
純貯蓄額(貯蓄現在高 - 負債現在高)(万円) ¹						
2015年	1306	-334	-44	1106	2206	2306
2016	1313	-524	18	1211	2092	2356
2017	1295	-521	19	1082	2177	2264
2018	1194	-648	-93	1095	2120	2145
2019	1185	-650	-48	1052	2080	2183
2020	1219	-536	-150	1004	2142	2173
世帯数分布(%) ²						
2020年	100.0	11.5	19.3	16.1	21.4	31.7

1 マイナスは、負債超過額を示す。

2 貯蓄・負債編は、貯蓄・負債不詳世帯を除いて集計している。このため、世帯数分布は家計収支編の世帯数分布とは必ずしも一致しない。

(2) 負債保有世帯のうち負債超過額が最も多いのは世帯主が40歳未満の世帯

二人以上の世帯のうち負債保有世帯について世帯主の年齢階級別に貯蓄現在高をみると、40歳未満の世帯が678万円と最も少なくなっているのに対し、60歳以上の世帯は1725万円と最も多くなっており、年齢階級が高くなるに従って貯蓄現在高は多くなっている。

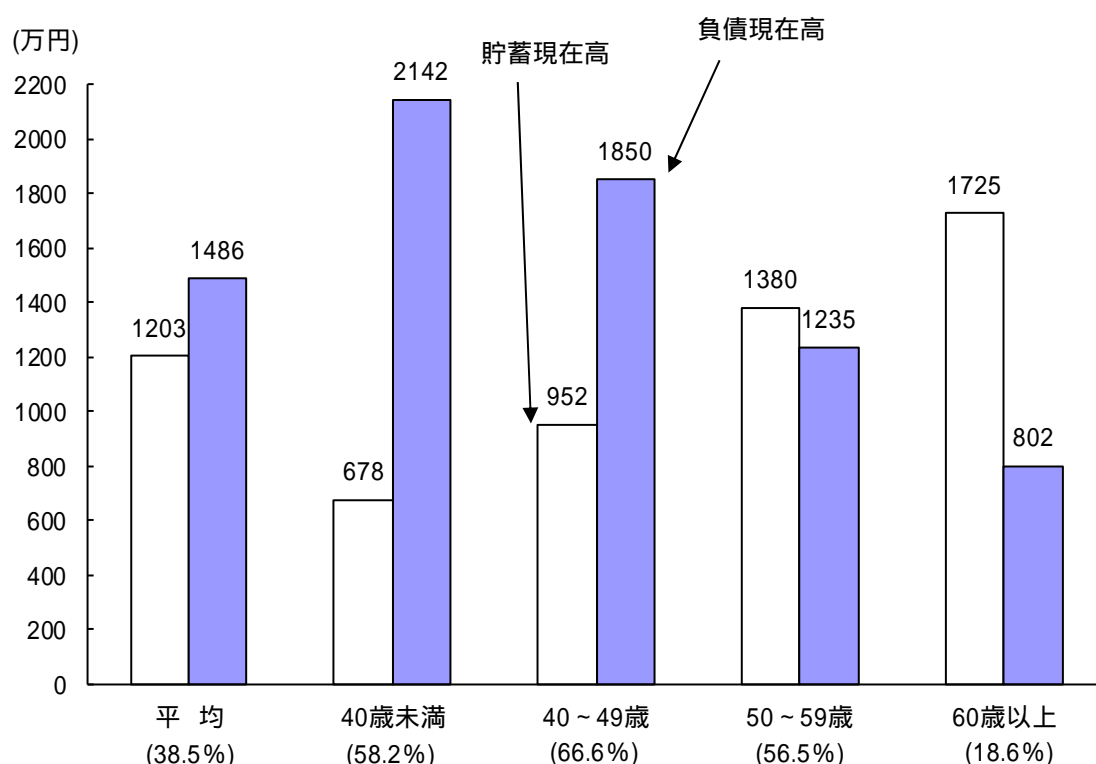
負債現在高をみると、40歳未満の世帯が2142万円と最も多く、年齢階級が高くなるに従って負債現在高は少なくなっている。

純貯蓄額をみると、50歳未満の各年齢階級で負債現在高が貯蓄現在高を上回っており、40歳未満の世帯の負債超過額が1464万円と最も多くなっている。一方、50歳以上の各年齢階級では貯蓄現在高が負債現在高を上回っており、60歳以上の世帯の純貯蓄額は923万円となっている。

40歳未満の世帯について2019年と比べると、貯蓄現在高は、前年に比べ8万円、1.2%の増加となっている。一方、負債現在高は、前年に比べ25万円、1.2%の減少となり、負債現在高の約9割(93.9%)を占める住宅・土地のための負債は2012万円で、前年に比べ61万円、2.9%の減少となっている。

(図 - 1 - 2, 表 - 1 - 2)

図 - 1 - 2 世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高
(二人以上の世帯のうち負債保有世帯) - 2020年 -



注) ()内は、当該階級ごとの二人以上の世帯に占める負債保有世帯の割合

表 - 1 - 2 世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高の推移
(二人以上の世帯のうち負債保有世帯)

年次	平均	40歳未満	40～49歳	50～59歳	60歳以上
貯蓄現在高(万円)					
2015年	1128	528	860	1324	1654
2016年	1111	543	912	1346	1551
2017年	1142	533	924	1414	1628
2018年	1119	585	880	1428	1530
2019年	1100	670	951	1244	1510
2020年	1203	678	952	1380	1725
対前年増減率(%)					
2016年	-1.5	2.8	6.0	1.7	-6.2
2017年	2.8	-1.8	1.3	5.1	5.0
2018年	-2.0	9.8	-4.8	1.0	-6.0
2019年	-1.7	14.5	8.1	-12.9	-1.3
2020年	9.4	1.2	0.1	10.9	14.2
年間収入(万円)					
2020年	756	672	812	892	616
貯蓄年収比(貯蓄現在高/年間収入)(%)					
2020年	159.1	100.9	117.2	154.7	280.0
負債現在高(万円)					
2015年	1310	1796	1653	1181	708
2016年	1357	1898	1669	1116	810
2017年	1379	1893	1629	1159	885
2018年	1430	2029	1689	1277	794
2019年	1451	2167	1697	1178	801
2020年	1486	2142	1850	1235	802
対前年増減率(%)					
2016年	3.6	5.7	1.0	-5.5	14.4
2017年	1.6	-0.3	-2.4	3.9	9.3
2018年	3.7	7.2	3.7	10.2	-10.3
2019年	1.5	6.8	0.5	-7.8	0.9
2020年	2.4	-1.2	9.0	4.8	0.1
住宅・土地のための負債(万円)					
2015年	1170	1710	1538	982	559
2016年	1211	1800	1553	926	632
2017年	1235	1783	1525	1015	666
2018年	1283	1924	1576	1100	604
2019年	1318	2073	1587	1045	601
2020年	1346	2012	1731	1097	628
純貯蓄額(貯蓄現在高 - 負債現在高)(万円)					
2015年	-182	-1268	-793	143	946
2016年	-246	-1355	-757	230	741
2017年	-237	-1360	-705	255	743
2018年	-311	-1444	-809	151	736
2019年	-351	-1497	-746	66	709
2020年	-283	-1464	-898	145	923
世帯数分布(%)					
2020年	100.0	17.4	33.3	23.6	25.7

マイナスは、負債超過額を示す。

2 年間収入五分位階級別

(1) 年間収入が最も低い第 階級の世帯では定期性預貯金の割合が約 4 割

二人以上の世帯について年間収入五分位階級別 に 1 世帯当たり貯蓄現在高をみると，年間収入が最も低い第 階級(世帯主の平均年齢69.9歳)が1357万円，年間収入が最も高い第 階級(同53.0歳)が2562万円となっている。

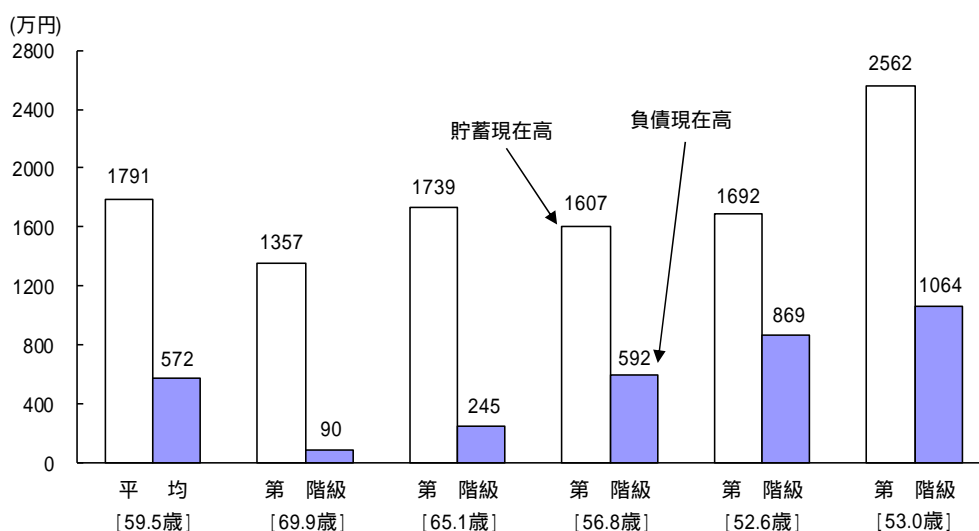
貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比をみると，通貨性預貯金は第 階級が33.3%と最も高く，第 階級が28.0%と最も低くなっている。定期性預貯金は第 階級が41.0%と最も高く，第 階級が28.0%と最も低くなっている。有価証券は第 階級が15.5%と最も高く，第 階級が10.5%と最も低くなっている。

負債現在高をみると，第 階級が90万円，第 階級が1064万円となっており，年間収入が高くなるに従って負債現在高が多くなっている。

(図 - 2 - 1，図 - 2 - 2，表 - 2 - 1)

年間収入五分位階級とは，年間収入の低い方から高い世帯へと順に並べて 5 等分したもので，低い方から第 1 階級，第 2 階級，第 3 階級，第 4 階級，第 5 階級 (五分位) 階級という。

図 - 2 - 1 年間収入五分位階級別貯蓄・負債現在高 (二人以上の世帯) - 2020年 -



注) []内は，世帯主の平均年齢

図 - 2 - 2 年間収入五分位階級，貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比 (二人以上の世帯) - 2020年 -

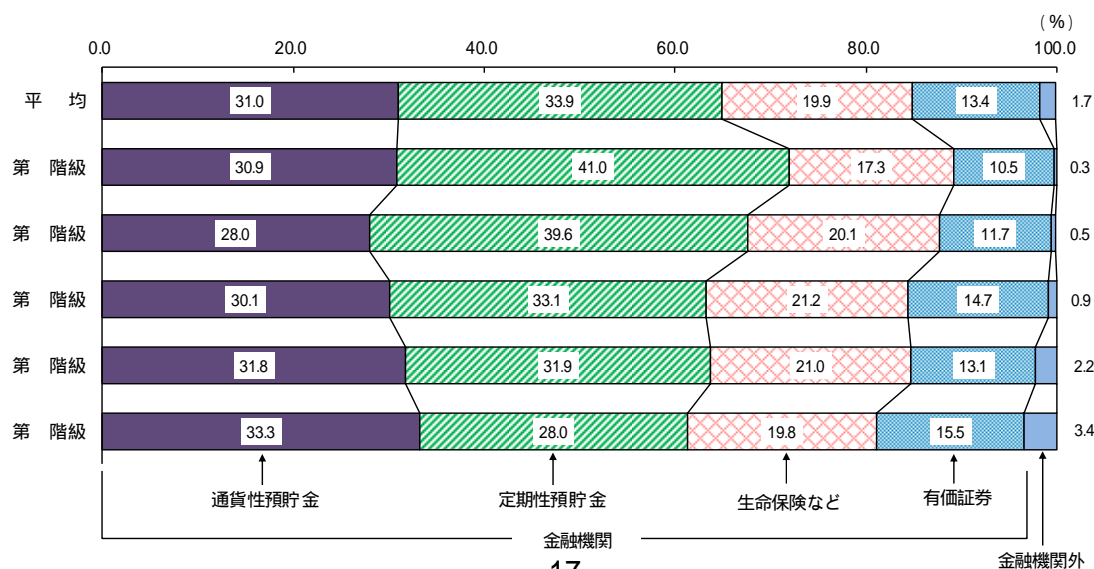


表 - 2 - 1 年間収入五分位階級，貯蓄・負債の種類別貯蓄・負債現在高

(二人以上の世帯) - 2020年 -

項目	平均	第 階級	第 階級	第 階級	第 階級	第 階級
		~ 333万円	333~ 463万円	463~ 629万円	629~ 879万円	879万円 ~
世帯人員(人)	2.96	2.40	2.66	3.03	3.26	3.43
世帯主の年齢(歳)	59.5	69.9	65.1	56.8	52.6	53.0
持家率(%)	85.8	85.0	85.9	85.2	85.0	87.6
年間収入	634	256	金額(万円) 395 541		742	1236
貯蓄現在高	1791	1357	金額(万円) 1739 1607		1692	2562
金融機関	1761	1353	1730	1593	1654	2473
通貨性預貯金	556	419	487	484	538	853
定期性預貯金	607	556	689	532	539	718
生命保険など	357	235	350	341	355	506
有価証券	240	142	204	236	221	397
金融機関外	31	4	8	14	38	88
貯蓄現在高	100.0	100.0	構成比(%) 100.0 100.0		100.0	100.0
金融機関	98.3	99.7	99.5	99.1	97.8	96.5
通貨性預貯金	31.0	30.9	28.0	30.1	31.8	33.3
定期性預貯金	33.9	41.0	39.6	33.1	31.9	28.0
生命保険など	19.9	17.3	20.1	21.2	21.0	19.8
有価証券	13.4	10.5	11.7	14.7	13.1	15.5
金融機関外	1.7	0.3	0.5	0.9	2.2	3.4
負債現在高	572	90	金額(万円) 245 592		869	1064
住宅・土地のための負債	518	73	214	549	791	964
住宅・土地以外の負債	36	7	20	24	53	77
月賦・年賦	18	9	11	20	25	24
負債現在高	100.0	100.0	構成比(%) 100.0 100.0		100.0	100.0
住宅・土地のための負債	90.6	81.1	87.3	92.7	91.0	90.6
住宅・土地以外の負債	6.3	7.8	8.2	4.1	6.1	7.2
月賦・年賦	3.1	10.0	4.5	3.4	2.9	2.3

(2) 勤労者世帯の貯蓄現在高は年間収入が高くなるに従って多い

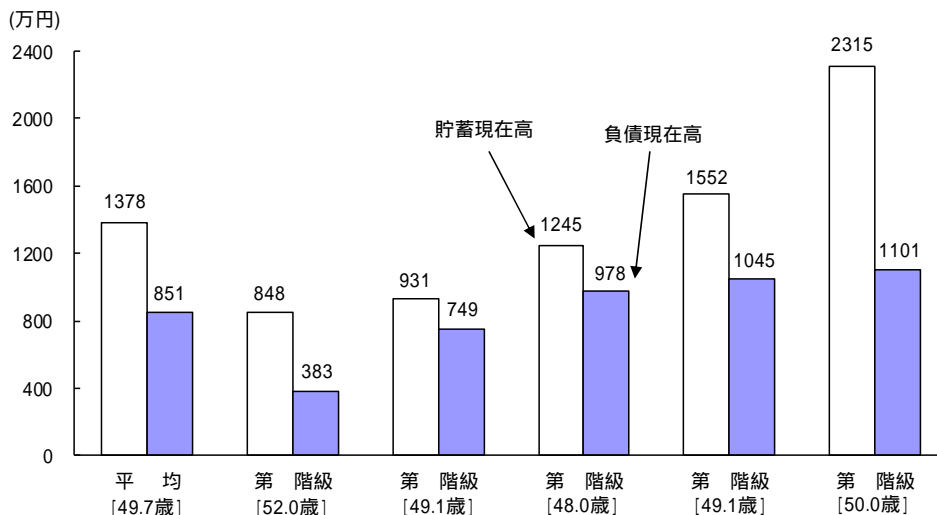
二人以上の世帯のうち勤労者世帯について年間収入五分位階級別に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、年間収入が最も低い第1階級(世帯主の平均年齢52.0歳)が848万円、年間収入が最も高い第5階級(同50.0歳)が2315万円となっており、年間収入が高くなるに従って貯蓄現在高が多くなっている。

貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比をみると、通貨性預貯金は第1階級が35.8%と最も高く、第5階級及び第4階級が33.4%と最も低くなっている。定期性預貯金は第1階級が33.8%と最も高く、第5階級が25.8%と最も低くなっている。有価証券は第1階級が15.8%と最も高く、第5階級が7.1%と最も低くなっている。

負債現在高をみると、第1階級が383万円、第5階級が1101万円となっており、年間収入が高くなるに従って負債現在高が多くなっている。

(図 - 2 - 3, 図 - 2 - 4, 表 - 2 - 2)

図 - 2 - 3 年間収入五分位階級別貯蓄・負債現在高
(二人以上の世帯のうち勤労者世帯) - 2020年 -



注) []内は、世帯主の平均年齢

図 - 2 - 4 年間収入五分位階級，貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比
(二人以上の世帯のうち勤労者世帯) - 2020年 -

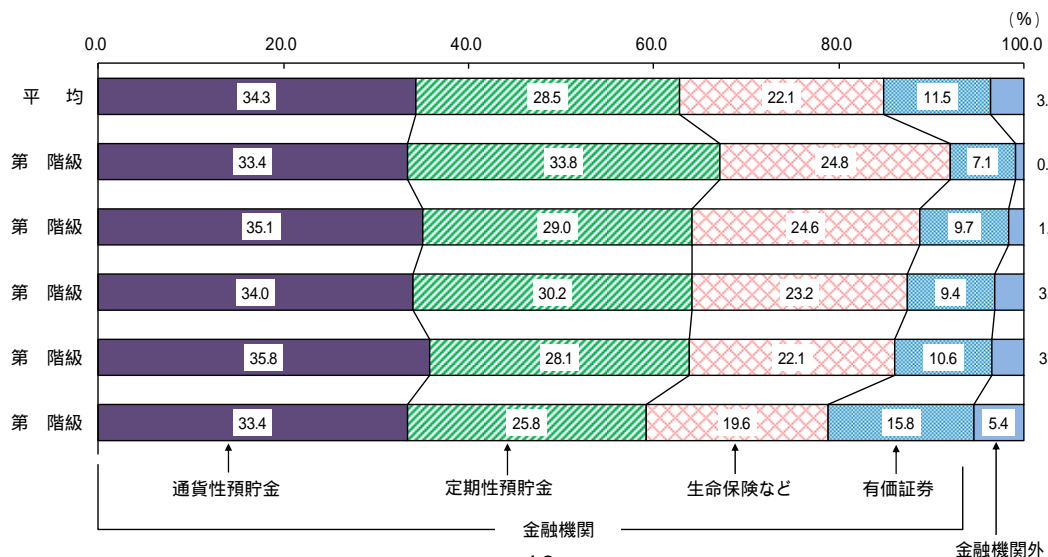


表 - 2 - 2 年間収入五分位階級，貯蓄・負債の種類別貯蓄・負債現在高

(二人以上の世帯のうち勤労者世帯) - 2020年 -

項 目	平 均	第 階級	第 階級	第 階級	第 階級	第 階級
		~ 459万円	459~ 606万円	606~ 760万円	760~ 982万円	982万円 ~
世帯人員(人)	3.30	2.98	3.26	3.34	3.40	3.52
世帯主の年齢(歳)	49.7	52.0	49.1	48.0	49.1	50.0
持家率(%)	80.1	69.2	78.3	81.9	85.1	85.9
年間収入	740	354	532	681	862	1269
			金 額(万円)			
貯蓄現在高	1378	848	931	1245	1552	2315
金融機関	1330	840	916	1206	1497	2191
通貨性預貯金	472	283	327	423	555	774
定期性預貯金	393	287	270	376	436	597
生命保険など	305	210	229	289	343	454
有価証券	159	60	90	117	164	366
金融機関外	48	8	15	39	55	125
			構 成 比(%)			
貯蓄現在高	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
金融機関	96.5	99.1	98.4	96.9	96.5	94.6
通貨性預貯金	34.3	33.4	35.1	34.0	35.8	33.4
定期性預貯金	28.5	33.8	29.0	30.2	28.1	25.8
生命保険など	22.1	24.8	24.6	23.2	22.1	19.6
有価証券	11.5	7.1	9.7	9.4	10.6	15.8
金融機関外	3.5	0.9	1.6	3.1	3.5	5.4
			金 額(万円)			
負債現在高	851	383	749	978	1045	1101
住宅・土地のための負債	791	342	702	918	983	1009
住宅・土地以外の負債	37	22	25	36	36	68
月賦・年賦	23	19	22	24	26	25
			構 成 比(%)			
負債現在高	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
住宅・土地のための負債	92.9	89.3	93.7	93.9	94.1	91.6
住宅・土地以外の負債	4.3	5.7	3.3	3.7	3.4	6.2
月賦・年賦	2.7	5.0	2.9	2.5	2.5	2.3

3 貯蓄現在高五分位階級別

貯蓄現在高が最も高い第 階級の世帯の有価証券の割合は約 2 割

二人以上の世帯について貯蓄現在高五分位階級別 に貯蓄・負債現在高をみると、貯蓄現在高が多くなるに従って、負債現在高は少なくなる傾向にある。貯蓄の種類別割合をみると、貯蓄現在高が低い階級では、通貨性預貯金の割合が高くなっている。一方、貯蓄現在高が高い階級では、定期性預貯金及び有価証券の割合が高くなっている。貯蓄現在高が最も高い第 階級についてみると、有価証券の割合は約 2 割(17.7%)となっている。

(図 - 3 - 1 , 図 - 3 - 2 , 表 - 3 - 1)

貯蓄現在高五分位階級とは、貯蓄現在高の低い方から高い世帯へと順に並べて 5 等分したもので、低い方から第 1 階級、第 2 階級、第 3 階級、第 4 階級、第 5 階級 (五分位) 階級という。

図 - 3 - 1 貯蓄現在高五分位階級別貯蓄・負債現在高 (二人以上の世帯) - 2020年 -

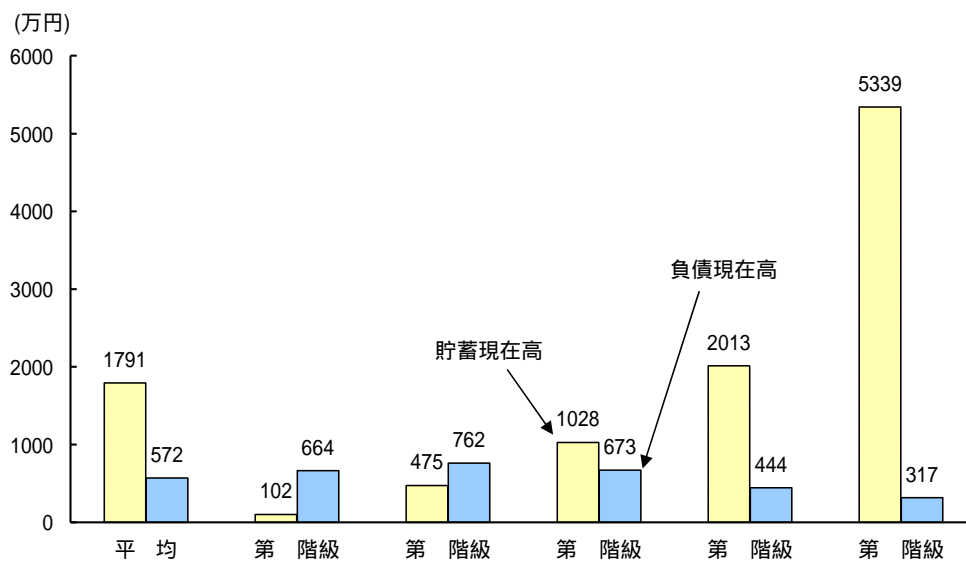


図 - 3 - 2 貯蓄現在高五分位階級，貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比 (二人以上の世帯) - 2020年 -

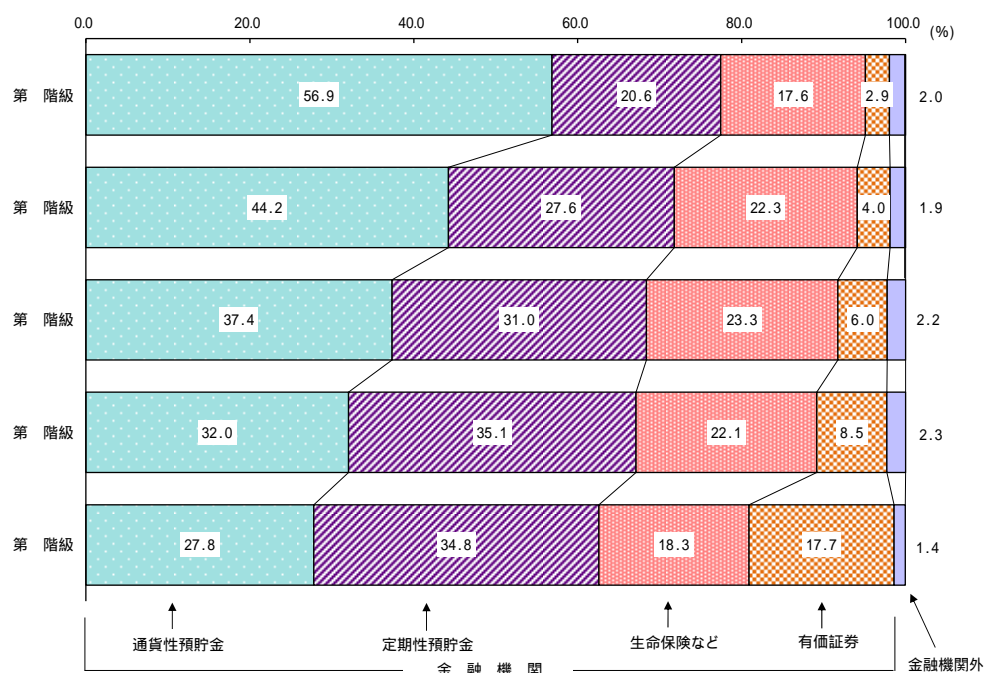


表 - 3 - 1 貯蓄現在高五分位階級，貯蓄の種類別貯蓄現在高（二人以上の世帯） - 2020年 -

項目	平均	第 階級	第 階級	第 階級	第 階級	第 階級
		~ 266万円	266~ 716万円	716~ 1401万円	1401~ 2816万円	2816万円 ~
金 額 (万円)						
貯蓄現在高	1791	102	475	1028	2013	5339
金融機関	1761	100	466	1005	1967	5265
通貨性預貯金	556	58	210	384	645	1484
定期性預貯金	607	21	131	319	706	1857
生命保険など	357	18	106	240	444	979
有価証券	240	3	19	62	172	944
金融機関外	31	2	9	23	46	73
(参考)年間収入	634	498	596	645	669	761
構 成 比 (%)						
貯蓄現在高	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
金融機関	98.3	98.0	98.1	97.8	97.7	98.6
通貨性預貯金	31.0	56.9	44.2	37.4	32.0	27.8
定期性預貯金	33.9	20.6	27.6	31.0	35.1	34.8
生命保険など	19.9	17.6	22.3	23.3	22.1	18.3
有価証券	13.4	2.9	4.0	6.0	8.5	17.7
金融機関外	1.7	2.0	1.9	2.2	2.3	1.4
構成比の対前年変化幅(ポイント)						
貯蓄現在高						
金融機関	0.5	-0.9	0.3	0.8	0.8	0.3
通貨性預貯金	2.9	1.5	1.3	2.1	1.9	3.4
定期性預貯金	-2.8	-2.2	-1.6	-0.9	-1.1	-3.8
生命保険など	0.2	-0.9	0.3	-1.0	-0.2	0.7
有価証券	0.1	0.7	0.3	0.3	0.2	0.1
金融機関外	-0.5	-0.2	-0.5	-0.7	-0.8	-0.3

4 持家世帯（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）

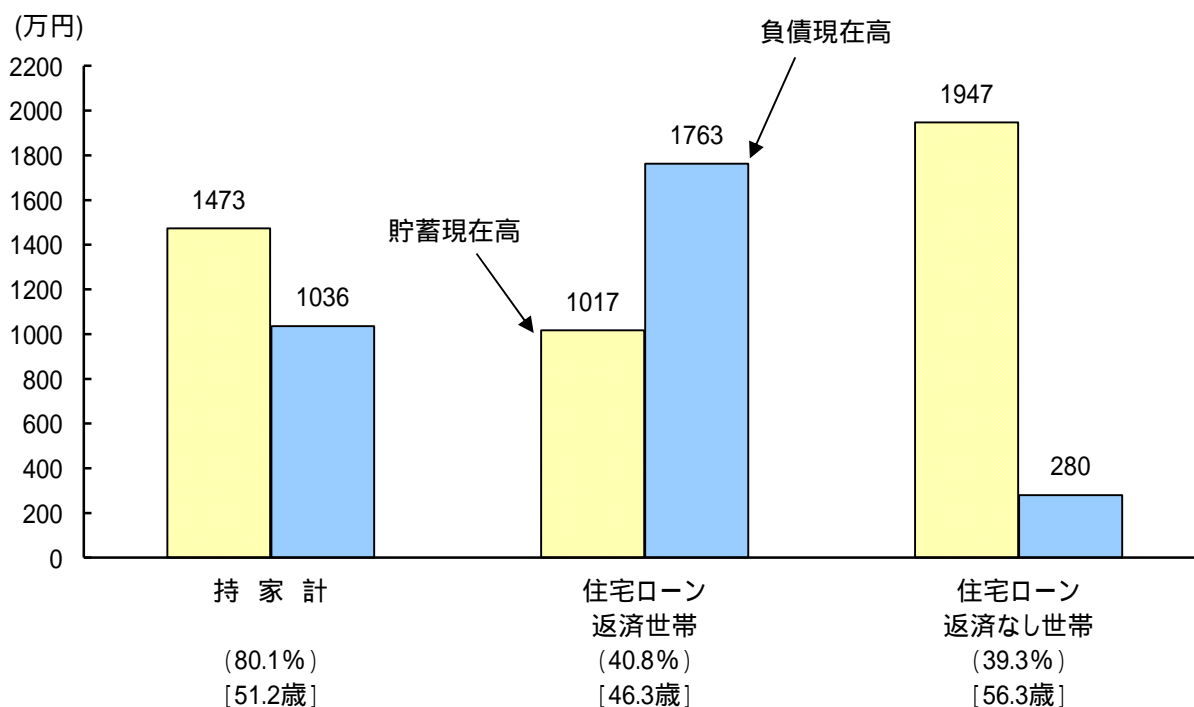
持家世帯のうち住宅ローン返済世帯の負債現在高は1763万円

二人以上の世帯の勤労者世帯のうち持家世帯（勤労者世帯に占める割合80.1%、世帯主の平均年齢51.2歳）について、住宅ローンの有無別に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、住宅ローン返済世帯（同40.8%、同46.3歳）は1017万円となっており、前年に比べ48万円、5.0%の増加となっている。住宅ローン返済なし世帯（同39.3%、同56.3歳）は1947万円となっており、前年に比べ88万円、4.3%の減少となっている。

同様に、負債現在高をみると、住宅ローン返済世帯は1763万円となっており、前年に比べ39万円、2.3%の増加となっている。住宅ローン返済なし世帯は280万円となっており、前年に比べ14万円、4.8%の減少となっている。

（図 - 4 - 1，表 - 4 - 1）

図 - 4 - 1 持家世帯の住宅ローンの有無別貯蓄・負債現在高
（二人以上の世帯のうち勤労者世帯） - 2020年 -



注) 1 ()内は、勤労者世帯に占める割合
2 []内は、世帯主の平均年齢

表 - 4 - 1 持家世帯の住宅ローンの有無別貯蓄・負債現在高の推移

(二人以上の世帯のうち勤労者世帯)

年次	金額(万円)			対前年増減率(%)		
	持家計	住宅ローン返済世帯	住宅ローン返済なし世帯	持家計	住宅ローン返済世帯	住宅ローン返済なし世帯
	貯蓄現在高					
2015年	1442	925	1962	-1.4	2.4	-3.7
2016	1424	906	1993	-1.2	-2.1	1.6
2017	1447	956	1962	1.6	5.5	-1.6
2018	1437	918	2021	-0.7	-4.0	3.0
2019	1474	969	2035	2.6	5.6	0.7
2020	1473	1017	1947	-0.1	5.0	-4.3
	負債現在高					
2015年	959	1671	243	-1.2	-0.4	-0.4
2016	981	1649	247	2.3	-1.3	1.6
2017	978	1690	231	-0.3	2.5	-6.5
2018	1016	1695	252	3.9	0.3	9.1
2019	1047	1724	294	3.1	1.7	16.7
2020	1036	1763	280	-1.1	2.3	-4.8
	住宅・土地のための負債					
2015年	898	1585	207	-2.7	-1.6	-3.7
2016	909	1557	197	1.2	-1.8	-4.8
2017	919	1605	200	1.1	3.1	1.5
2018	950	1609	208	3.4	0.2	4.0
2019	984	1642	252	3.6	2.1	21.2
2020	971	1677	237	-1.3	2.1	-6.0
	世帯主の年齢(歳)					
2020年	51.2	46.3	56.3	-	-	-

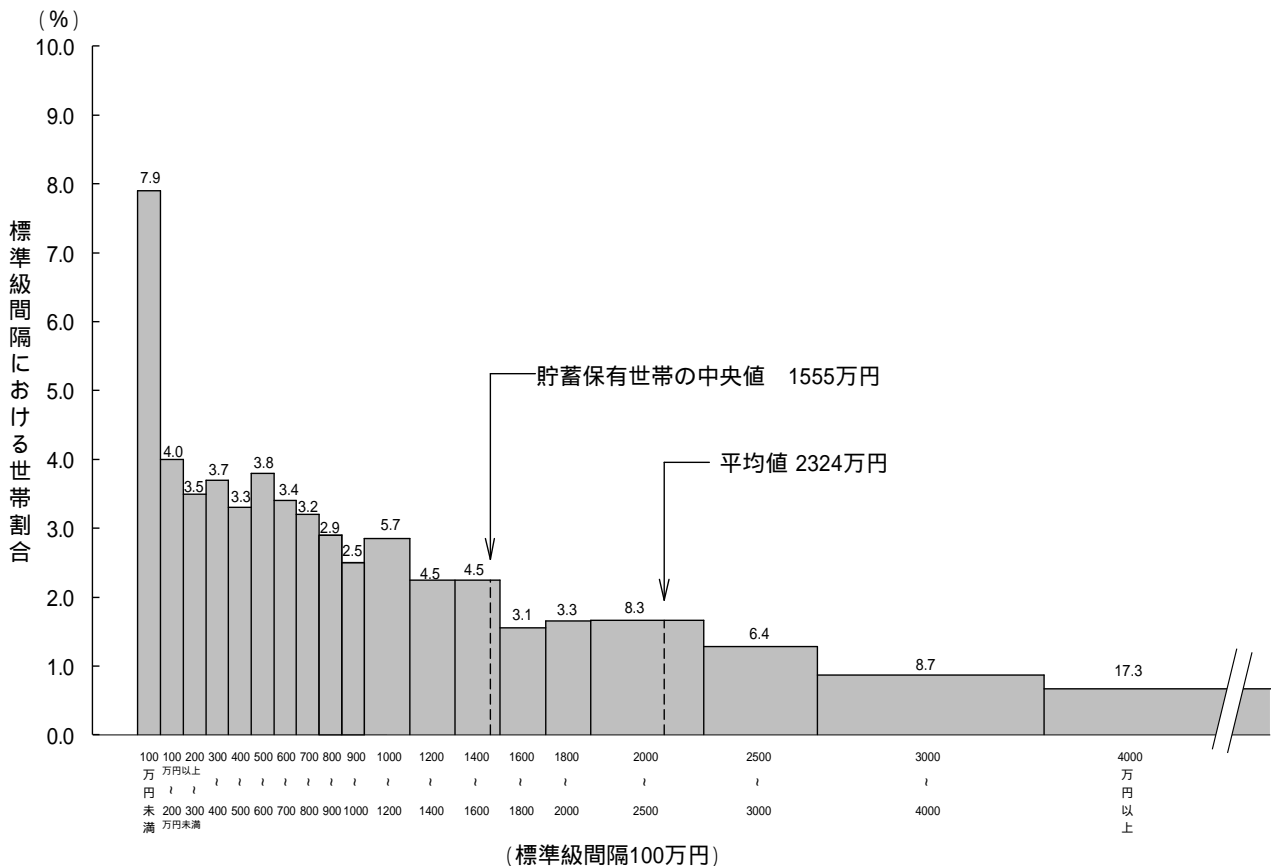
5 世帯主が65歳以上の世帯

(1) 世帯主が65歳以上の世帯では貯蓄現在高が2500万円以上の世帯が約3分の1を占める

二人以上の世帯のうち世帯主が65歳以上の世帯（二人以上の世帯に占める割合43.2%）について貯蓄現在高階級別の世帯分布をみると、二人以上の世帯全体と比べて、世帯主が65歳以上の世帯では貯蓄現在高が高い階級にも広がった分布となっている。そのうち2500万円以上の世帯は全体の32.5%と約3分の1を占めている。一方で、300万円未満の世帯は全体の15.4%を占めている。

（図 - 1 - 3，図 - 5 - 1，表 - 5 - 1）

図 - 5 - 1 世帯主が65歳以上の世帯の貯蓄現在高階級別世帯分布（二人以上の世帯） - 2020年 -



注) 標準級間隔100万円（貯蓄現在高1000万円未満）の各階級の度数は縦軸目盛りと一致するが、貯蓄現在高1000万円以上の各階級の度数は階級の間隔が標準級間隔よりも広いため、縦軸目盛りとは一致しない。
 貯蓄保有世帯の中央値とは、貯蓄「0」世帯を除いた世帯を貯蓄現在高の低い方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の貯蓄現在高をいう。

表 - 5 - 1 貯蓄現在高階級別世帯分布（二人以上の世帯） - 2020年 -

世帯分布	平均	標準級間隔100万円 (標準級間隔100万円)		
		300万円未満	300万円以上～2500万円未満	2500万円以上
二人以上の世帯	100.0	21.2	55.6	23.3
うち世帯主が65歳以上の世帯	100.0	15.4	52.1	32.5
うち世帯主が65歳未満の世帯	100.0	25.5	58.2	16.3

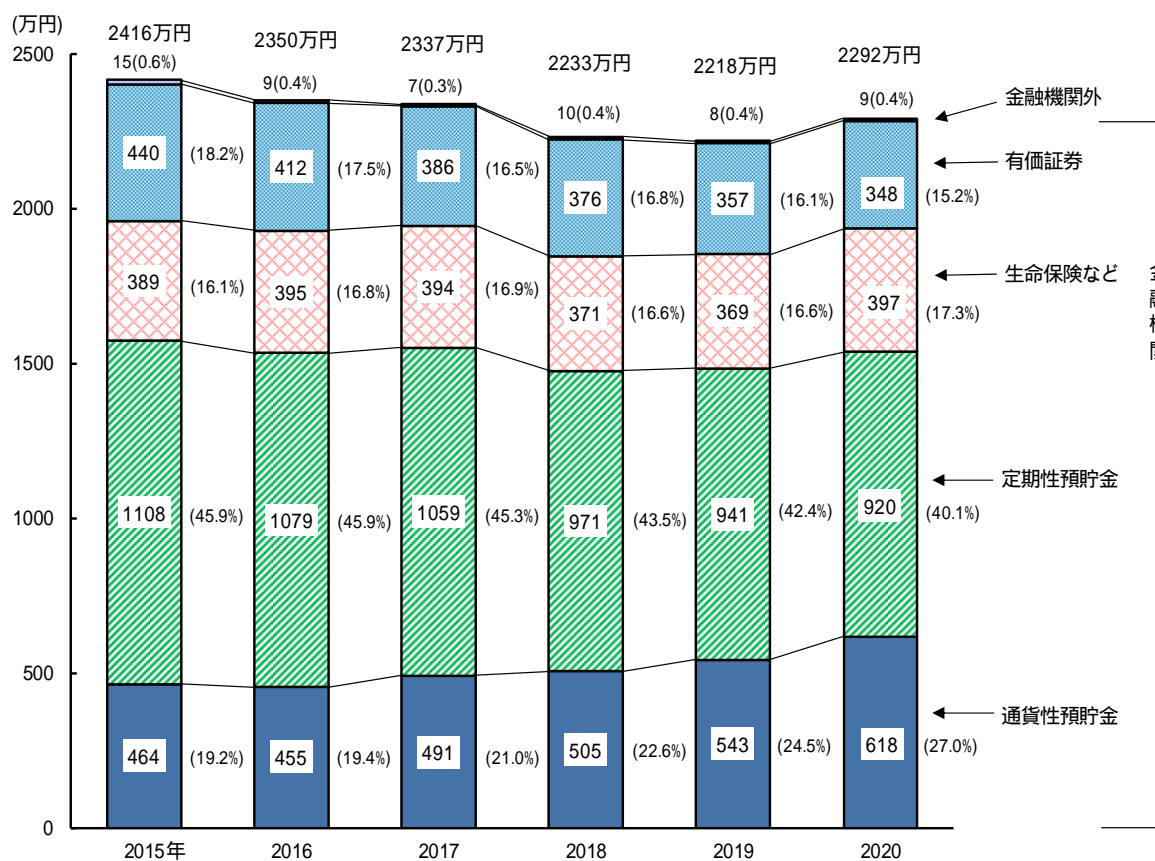
(2) 世帯主が65歳以上の無職世帯の通貨性預貯金は618万円で前年に比べ13.8%の増加

二人以上の世帯のうち世帯主が65歳以上の無職世帯（二人以上の世帯に占める割合31.7%）の1世帯当たり貯蓄現在高は2292万円で、前年に比べ74万円、3.3%の増加となり、5年ぶりの増加となっている。

貯蓄の種類別に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、定期性預貯金が920万円と最も多く、次いで通貨性預貯金が618万円、「生命保険など」が397万円、有価証券が348万円、金融機関外が9万円となっている。また、前年と比べると、通貨性預貯金が75万円、13.8%の増加、「生命保険など」が28万円、7.6%の増加などとなっている。

(図 - 5 - 2, 表 - 5 - 2)

図 - 5 - 2 世帯主が65歳以上の無職世帯の貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）



注) ()内は、貯蓄現在高に占める割合

表 - 5 - 2 世帯主が65歳以上の無職世帯の貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）

年次	貯蓄現在高	金融機関					金融機関外
		通貨性預貯金	定期性預貯金	生命保険など	有価証券		
金額(万円)							
2015年	2416	2401	464	1108	389	440	15
2016	2350	2341	455	1079	395	412	9
2017	2337	2330	491	1059	394	386	7
2018	2233	2224	505	971	371	376	10
2019	2218	2210	543	941	369	357	8
2020	2292	2284	618	920	397	348	9
構成比(%)							
2015年	100.0	99.4	19.2	45.9	16.1	18.2	0.6
2016	100.0	99.6	19.4	45.9	16.8	17.5	0.4
2017	100.0	99.7	21.0	45.3	16.9	16.5	0.3
2018	100.0	99.6	22.6	43.5	16.6	16.8	0.4
2019	100.0	99.6	24.5	42.4	16.6	16.1	0.4
2020	100.0	99.7	27.0	40.1	17.3	15.2	0.4
対前年増減率(%)							
2016年	-2.7	-2.5	-1.9	-2.6	1.5	-6.4	-40.0
2017	-0.6	-0.5	7.9	-1.9	-0.3	-6.3	-22.2
2018	-4.5	-4.5	2.9	-8.3	-5.8	-2.6	42.9
2019	-0.7	-0.6	7.5	-3.1	-0.5	-5.1	-20.0
2020	3.3	3.3	13.8	-2.2	7.6	-2.5	12.5

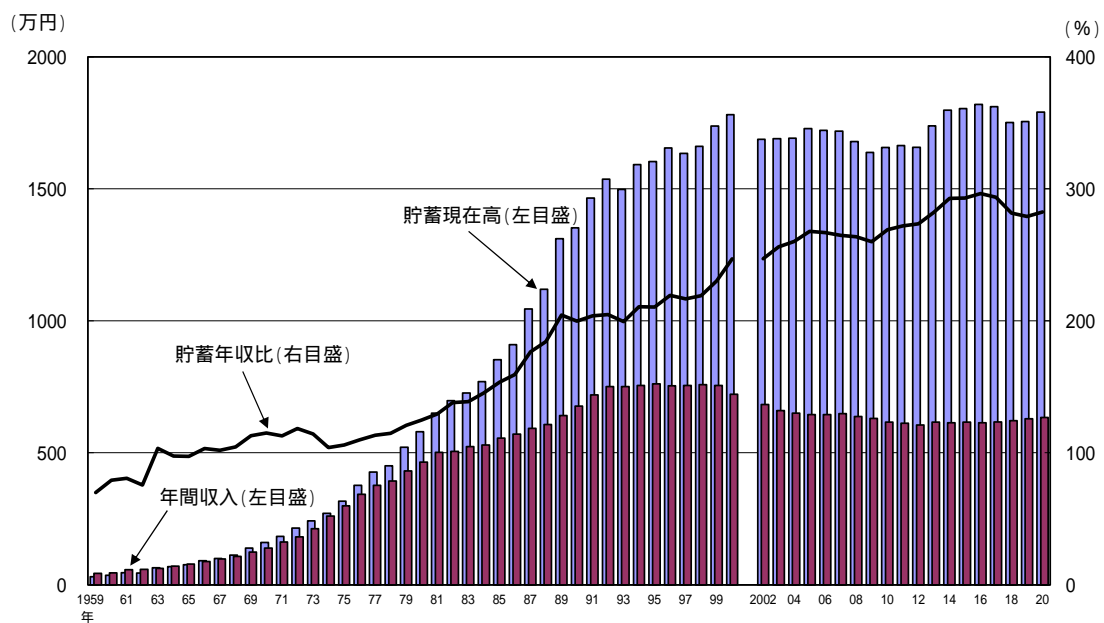
< 参考 1 - 1 > 長期時系列（二人以上の世帯の貯蓄の推移）

貯蓄現在高の年間収入に対する比は61年前の4.0倍

二人以上の世帯について1世帯当たり貯蓄現在高の最近の推移をみると、リーマンショック後、2010年、2011年と増加した後2012年は減少、2013年以降は4年連続で増加となった。2017年、2018年は減少となっていたが、2019年、2020年は2年連続で増加となった。2020年(1791万円)の水準は約半世紀前の1959年(30万円)の59.7倍となっている。また、貯蓄年収比（貯蓄現在高の年間収入に対する比）をみると、2020年は282.5%と、1959年(70.0%)の4.0倍となっている。

（図， < 参考 1 - 2 > 表）

図 貯蓄現在高及び年間収入の推移（二人以上の世帯）



注) 2000年以前は、「貯蓄動向調査」結果による。数値については次ページ参照 ⇨

貯蓄動向調査：家計調査の附帯調査として2000年まで毎年12月31日現在で実施。
 家計調査とは、調査時期、調査対象世帯数等が異なる。
 貯蓄・負債編としての調査は、1年の準備期間の後、2002年から実施

< 参考 1 - 2 > 表 貯蓄現在高及び年間収入の推移（二人以上の世帯）

年次	貯蓄現在高 (1) (万円)	年間収入 (2) (万円)	対前年増減率		貯蓄 年間 収入 比 (1)/(2) (%)
			貯蓄 現在 高 (%)	年間 収入 (%)	
1959年	30.23	43.18	-	-	70.0
1960	35.90	45.31	18.8	4.9	79.2
1961	46.21	57.28	28.7	26.4	80.7
1962	44.09	58.32	-4.6	1.8	75.6
1963	64.65	62.57	46.6	7.3	103.3
1964	68.90	70.59	6.6	12.8	97.6
1965	76.36	78.39	10.8	11.0	97.4
1966	90.99	88.19	19.2	12.5	103.2
1967	99.47	97.58	9.3	10.6	101.9
1968	112.62	107.79	13.2	10.5	104.5
1969	139.45	123.49	23.8	14.6	112.9
1970	160.27	139.35	14.9	12.8	115.0
1971	182.91	162.12	14.1	16.3	112.8
1972	214.98	181.60	17.5	12.0	118.4
1973	242.60	212.35	12.8	16.9	114.2
1974	270.42	259.78	11.5	22.3	104.1
1975	316.8	299.0	17.2	15.1	106.0
1976	376.8	342.8	18.9	14.6	109.9
1977	427.1	376.9	13.3	9.9	113.3
1978	451.1	393.2	5.6	4.3	114.7
1979	521.2	431.4	15.5	9.7	120.8
1980	579.4	464.3	11.2	7.6	124.8
1981	650.0	501.7	12.2	8.1	129.6
1982	697.2	505.1	7.3	0.7	138.0
1983	726.3	523.5	4.2	3.6	138.7
1984	769.7	529.7	6.0	1.2	145.3
1985	852.8	555.7	10.8	4.9	153.5
1986	909.5	571.0	6.6	2.8	159.3
1987	1045.2	592.3	14.9	3.7	176.5
1988	1119.8	607.5	7.1	2.6	184.3
1989	1311.0	641.3	17.1	5.6	204.4
1990	1353.0	677.3	3.2	5.6	199.8
1991	1465.4	718.9	8.3	6.1	203.8
1992	1536.8	750.5	4.9	4.4	204.8
1993	1498.2	751.0	-2.5	0.1	199.5
1994	1592.1	755.2	6.3	0.6	210.8
1995	1603.5	761.8	0.7	0.9	210.5
1996	1655.3	754.5	3.2	-1.0	219.4
1997	1634.5	754.8	-1.3	0.0	216.5
1998	1660.7	758.4	1.6	0.5	219.0
1999	1737.7	755.0	4.6	-0.4	230.2
2000	1781.2	721.3	2.5	-4.5	246.9
2001	-	-	-	-	-
2002	1688	683	-	-	247.1
2003	1690	660	0.1	-3.4	256.1
2004	1692	650	0.1	-1.5	260.3
2005	1728	645	2.1	-0.8	267.9
2006	1722	645	-0.3	0.0	267.0
2007	1719	649	-0.2	0.6	264.9
2008	1680	637	-2.3	-1.8	263.7
2009	1638	630	-2.5	-1.1	260.0
2010	1657	616	1.2	-2.2	269.0
2011	1664	612	0.4	-0.6	271.9
2012	1658	606	-0.4	-1.0	273.6
2013	1739	616	4.9	1.7	282.3
2014	1798	614	3.4	-0.3	292.8
2015	1805	616	0.4	0.3	293.0
2016	1820	614	0.8	-0.3	296.4
2017	1812	617	-0.4	0.5	293.7
2018	1752	622	-3.3	0.8	281.7
2019	1755	629	0.2	1.1	279.0
2020	1791	634	2.1	0.8	282.5

貯蓄動向調査の結果

家計調査(貯蓄・負債編)の結果

注) 1959年から2000年までは貯蓄動向調査の結果であり、2002年以降は家計調査(貯蓄・負債編)の結果である。

< 参考 2 > 2020年の貯蓄・負債をめぐる主な動き

貯蓄・負債関係

- ・ ゆうちょ銀行が定期貯金の金利を0.01%から0.002%に引下げ。定期性の貯金商品の金利引下げは2016年3月以来で、2007年の民营化後では最低（4月）
- ・ 1人当たり10万円を支給する特別定額給付金の申請受付を開始（5月）
- ・ 経団連がまとめた大企業が支給するボーナスの平均妥結額は、夏90万1147円、冬86万5621円と、それぞれ前年比2.17%の減少、9.02%の減少（8月及び12月）
- ・ 銀行口座と連携して利用する決済サービスを提供している事業者を通じて、銀行口座から不正な出金を行う事案が発生（9月）
- ・ 日経平均株価は11月26日、前日に米株式市場でナスダック総合株価指数が過去最高値を更新した影響で、終値2万6537円となり、1991年4月以来およそ29年半ぶりの高値を更新（11月）
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で収入が減少し、住宅ローン、カードローン等の返済が困難となった人を対象に、返済負担を軽減する制度を開始（12月）
- ・ 少額投資非課税制度「つみたてNISA」の2020年末時点の口座数は302万8259（速報値）と、1年前から約60%の増加、買付額は6878億円と約131%の増加（12月）
- ・ 内閣府が公表した4～6月期の家計貯蓄率は21.8%（季節調整値）と、特別定額給付金の支給や個人消費が落ち込んだ影響もあり、比較可能な1994年以降で最高。7～9月期の家計貯蓄率も11.3%と引き続き高水準
- ・ 2021年1月時点の住宅地の公示地価は、5年ぶりの下落
- ・ 2020年の新設住宅着工戸数は前年比9.9%減となり、4年連続の減少

その他

- ・ 山手線で49年ぶりの新駅となる「高輪ゲートウェイ駅」が品川 田町間に開業（3月）
- ・ 東京オリンピック・パラリンピックの開催延期が決定（3月）
- ・ 高校野球（春夏の甲子園）の開催中止や、プロ野球、大相撲などの国内主要スポーツの開催延期（3月）
- ・ Nintendo Switch（ニンテンドースイッチ）ソフト「あつまれ どうぶつの森」の世界販売本数が発売から12日間で1177万本を記録（3月）
- ・ 道路交通法改正により、妨害運転（「あおり運転」）に対する罰則の創設（6月）
- ・ 梅雨前線が停滞した影響で九州を中心に記録的な豪雨となり、熊本県球磨川などが氾濫（7月）
- ・ 約7年8か月ぶりに首相交代。菅義偉内閣が発足（9月）
- ・ 統計開始以来初となる、各地で11月に連続して夏日を観測
- ・ 10月に公開した「劇場版『鬼滅の刃』無限列車編」の興行収入が公開73日間で歴代一位到達（12月）
- ・ 2020年の台風の日本上陸、2008年以来12年ぶりになし